



# 脇町ロータリークラブ

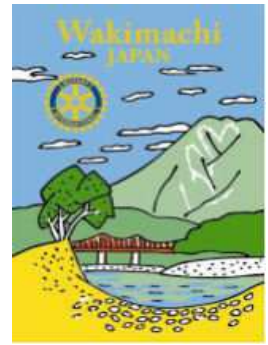
第2670地区

徳島第2分区 脇町ロータリークラブ

2019年12月26日 木曜日

第25回例会 No.2697

会員総数: 41名 修正出席率: 100%



## ◎メイクアップ

地区大会 11/24 谷口会員、鉄野会員、友成会員、信田会員、橋本会員、秦会員、平山会員、古川会員、古田会員、南会員、南会長、六車会員、宮本会員、笠井会員、浜口会員、須藤会員

## ◎会長挨拶

南由起子会長 令和元年、最後の例会です。

今週月曜日に55周年記念例会の会場モアナコーストに小野幹事、遠藤会員、藤原会員、小笠会員、佐藤順二会員の6人で行ってきました。記念例会をするのに申し分のない会場でした。年が明けましたら2ヶ月ほどしかありません。式典はありませんが心に残る記念例会になればと思っています。遠藤記念例会委員長・藤原副委員長を中心に各委員長・副委員長の方々、委員会で相談してよろしくをお願いします。

皆様のご協力で半年間やってこれました。本当に感謝しています。また2020年度もよろしくをお願いします。気温差が激しいので体調には気をつけて来年1月9日の新年会でお会いしましょう。

## ◎幹事報告

小野幹事 幹事報告をさせていただきます。

到着週報  
到着書類

- 阿波池田 各RC
- ガバナー事務所より年末年始休業の案内。
- ロータリーの友1月号が届いています。
- 2019-2020年度IM開催案内  
3月28日(土) 受付 9:30~ 場所 ホテルクレメント徳島4階

## ◎卓話

川原会員 ロータリークラブとは何かということで卓話をする事になり私なりに学んだことを話させていただきます。

ロータリークラブは国際的な社会奉仕連合団体「国際ロータリー」のメンバーである単位クラブで、その構成員のことをロータリアンといいます。最初のクラブが例会場所をローテーションで提供しあったことから「ロータリー」の名前がつけました。ローテーション・回転にちなみ、6本スポークの歯車がシンボルマークです。「国際ロータリー」は世界初の奉仕クラブ団体であり、200以上の国と地域に33,000近くのクラブを擁し、会員数は120万人以上です。

基本的には「I serve 私は奉仕する」、クラブとは「奉仕をするクラブ会員であるロータリアン個人の集まり」で、国際ロータリーはそのクラブの連合体とされていますが、個人のみならずクラブ単位や国際ロータリーとしての奉仕プログラムも行われています。

ロータリークラブは、20世紀に入ってまだ間もない1905年、米国イリノイ州シカゴの青年弁護士ポール・ハリスが「友情とビジネスを混ぜ合わせたら、友情もビジネスも増えるのではないか」というアイディアを基に、3人の友人と語り合って発足させたものです。ポールは、同業者間の親睦の難しさを痛感していたので競争相手となら

ない友人の輪をつくりだそうと、会員を一業種一人に制限しました。これがロータリーの職業分類制度の始まりです。

これにより他の会員から商売上の利益を得ることを目的として入会したような人でもクラブ内の温かい雰囲気にもまれて利益よりもっと満足できるもの、すなわち「親睦」を見出すことができるようになりました。他の職業の会員と話し合い、友情を育て、互いに協力して地域が抱えるいろいろな課題の解決を支援できるようになったのです。

ロータリーの親睦は、単に会員同士が仲良くするというだけではなく、奉仕活動の基礎となるものでした。さらに、共に行う奉仕活動が一層親睦を深めることになりましたので、ロータリーは親睦と奉仕の融合の場となったのです。この職業分類制度によって、会員はクラブに対しては自己の職業の代表者という責務を負うことになり、また、ロータリアン以外の人に対しては、日常の仕事を通してロータリー精神を普及する責務を負うことになりました。この二つの責務が職業奉仕の基盤となったのです。

奉仕とは何か？ということですが、これは奉仕の理想と定義されています。奉仕 service の動詞形が serve で、「人とか地域にニーズがあり、そのニーズを満たして行こうとする行為」を serve というのです。従って、serve という動作を行うためには先ずニーズを知ることが必要です。ニーズが満たされなければ、serve したことにならないのです。ニーズを満たす行為をサービスと云うのですが、その人が欲求することとその人にとって本当に必要な事とは必ずしも一致しないのです。本当に必要なものを適確に把握することが大切です。次に、理想 Ideal とはその完成度・達成度において、最高位にランクされる「もの」、または、「事柄」のことですから、"奉仕の理想 Ideal of Service" とは、人のニーズを良く汲み取って、そのニーズを理想的なかたちで満たすという意味です。そして、これを生活の場すべてに適用して行くように努力しましょうというのがロータリーの目的、即ち綱領なのです。

ロータリーの綱領(目的)はロータリアンそれぞれが「事業の基礎として奉仕の理念を奨励し、これを育むこと」にあります。具体的には、次の各項を奨励することにあります。第1に、知り合いを広めることによって奉仕の機会とすること(クラブ奉仕)。第2に、職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事はすべて価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものにすること(職業奉仕)。第3に、ロータリアン一人一人が、個人として、また事業および社会生活において、日々、奉仕の理念を実践すること(社会奉仕)。第4に、奉仕の理念で結ばれた職業人が、世界的ネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を推進すること(国際奉仕)

ロータリーの綱領、四大奉仕の定義がロータリーの奉仕の理念とその実践を示すものであるのに対し、四つのテストは日常の商取引・産業活動におけるロータリアンの言行の規準です。

言行はこれに照らしてから

1. 真実か どうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか

「Is it the truth ? 真実かどうか」

商取引において、商品の品質、納期、契約条件などに嘘偽りがないかどうかは、非常に大切な基準です。真実というのは、人間の心を通じたアナログ的な判定であるのに対して、事実とはその事実があったのか、無かったのかの二者択一を迫るデジタル的な判定ですので、「事実かどうか」という言葉を用いるのが適切です。

「Is it fair to all concerned ? みんなに公平か」

air と all concerned という言葉の翻訳に問題があります。fair は公平ではなく公正

と訳すべきでしょう。公平とは平等分配を意味するので、例え贈収賄で得たunfair不正なお金でも平等に分ければ、それでよいこととなります。all concerned は all だけが訳されており、肝心の concerned が省略されています。冒頭に述べたように四つのテストは「商取引」の基準として定めた文章ですから、このconcerned (関わりのある人、関係する人)は「取引先」のことを意味することは明白です。従ってこのフレーズは「すべての取引先に対して公正か」ということを意味します。

「Will it build goodwill and better friendship? 好意と友情を深めるか」  
goodwill は単なる好意とか善意を表す言葉ではなく、商売上の信用とか評判を表すと共に、店ののれんや取引先を表します。すなわち、その商取引が店の信用を高めると同時に、よりよい人間関係を築き上げて、取引先を増やすかどうかを問うものです。「信用を高め、取引先をふやすか」と訳すべきです。

「Will it be beneficial to all concerned? みんなのためになるかどうか」  
Benefit は「儲け」そのものを表す言葉です。商取引において適正な利潤を追求することは当然なことであり、決して恥ずべきことではありません。ただし、売り手だけが儲かった、また買い手だけが儲かったのでは公正な取引とは言えません。その商取引によって、すべての取引先が適正な利潤を得るかどうかの問題なのです。「すべての取引先に利益をもたらすか」と訳すべきでしょう。

ロータリークラブでは会員の職業倫理を高める「職業奉仕」、そしてそこから広がる「社会奉仕」「国際親善」を目的とし、「Service Above Self (超我の奉仕)」「One profits most who serves best (最も良く奉仕する者、最も多く報いられる)」を標語として定めています。ライオンズクラブは世界最大の奉仕団体であり、「ライオン」とは偉大な行為、高い理想といったものを象徴しています。その頭文字は「Liberty Intelligence Our Nation's Safety (自由を守り、知性を重んじ、われわれの国の安全をはかる)」というスローガンにもなっています。

ライオンズクラブが奉仕活動を行う時には「我々は奉仕する (We Serve)」。すなわちクラブ全体でまとまって一つの事業に基金を拠出します。原則として個人個人では奉仕しません。ロータリークラブは、全員がまとまって行う奉仕活動も沢山ありますが、基本的には「会員一人一人が奉仕活動の単位」です。すなわち、「私は奉仕する (I Serve)」「自己の責任と判断において、自分の職業を通して、社会に、世界に奉仕しよう」という考え方が基本となっています。

ロータリーには2つの公式標語があります。

一つは「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」

1911年、オレゴン州ポートランドで開催された全米ロータリークラブ連合会の第2回ロータリー大会で「He Profits Most Who Serves Best」がロータリーの標語として承認されました。これは、前年にシカゴで開かれた第一回ロータリー大会でロータリアンのアーサー・フレデリック・シェルドンが行った演説を基に作られた標語です。シェルドンはその演説の中で次のように語っています。「他者に対する正しい経営の科学のみが引き合うのだ。経営とは人間的な奉仕の科学である。その仲間に最もよく奉仕する者が最も多く報いられる」

もう一つは「超我の奉仕」

ポートランドでのロータリー大会は、もう一つの標語「超我の奉仕」が誕生するきっかけともなりました。大会中にコロンビア川でボート乗りを楽しんでいた米国ミネソタ州ミネアポリス・ロータリークラブの会長、ベン・コリンズは、シアトルのロータリアン、J.E.ピンカムと、ロータリークラブを組織するのにふさわしい方法について話し合っていました。その中でコリンズは、自分のクラブで採用していた理念「無私の奉仕 (Service, Not Self)」を紹介しました。ピンカムは、同じボートに乗っていたロータリー創始者、ポール・ハリスを呼んで会話を続けました。ハリスから依頼されコリンズは大会で演説を行い、この文言「無私の奉仕」が熱烈に

歓迎されたのです。

この2つの標語は、1950年にデトロイトで開催されたRI国際大会で、「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる (He Profits Most Who Serves Best) 」と「超我の奉仕 (Service Above Self) 」に修正され、ロータリーの公式標語として正式に承認されました。1989年の規定審議会では、「超我の奉仕」がロータリーの第一標語として採択されました。これは、この言葉が利己的でないボランティア奉仕の哲学を最もよく言い表しているとの理由からです。一方、「He Profits Most Who Serves Best」は、2004年規定審議会で「They Profit Most Who Serve Best」に修正され、さらに2010年規定審議会で現在の標語「One Profits Most Who Serves Best」となりました。

ロータリー活動の基本は、優秀な職業人であるロータリアンが毎週一回例会に出席しロータリーの哲学である奉仕の心を学び、それを通して親睦を深め、それによってさらに、奉仕の心を深め、充実させていくところにあります。

「例会出席によって形成された奉仕の心を、ロータリアン個人がそれぞれの家庭、地域社会、国際社会で実践に移すこと」になります。

ご静聴有り難うございました。

## ◎ニコニコボックス

上柿会員 小笠会員

次回例会	2020年1月9日(木) 18:30より 貞光ゆうゆう館 受付 18:00 開宴18:30
連絡事項	1月2日(木)は法定休会日と致します。 お間違えのないようご注意ください。

☆次の会員は例会欠席でした。メイクアップして下さい。

新井会員、一井会員、河合会員、木下会員、郷司会員、白川会員、千葉会員、友成会員、豊島会員、  
信田会員、浜口会員、平山会員、藤村会員、古川会員、森会員、吉野会員

☆次回例会の出欠を佐藤直樹出席委員長まで連絡してください。